



第27回 和白干潟まつり

11月22日(日)

11:00~15:15



♥ラムサール条約登録をめざして♥

今年もラムサール宣言を出します!
福岡市長のメッセージが届きます!

干潟で遊ぼう

参加無料

.....
会場 和白干潟・海の広場
(東区和白4丁目海岸) 小雨決行 駐車場なし
.....

主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、
グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議
(株)ファーストソリューション

後援/ 西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、
読売新聞西部本社、九州朝日放送、RKB毎日放送、
テレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、
NHK福岡放送局

模擬店・バザーの出店希望の方へ

イベント・模擬店・バザーの出店希望は、
10/25までに 実行委員会にお申し込みください。
干潟まつり実行委員会で決定します。

お問合わせ 今村・092-942-5282
お申込み 田中・092-606-5588

参加される皆さん、長靴・敷物は持ってきてね!

賛助金のご協力お願い

第27回和白干潟まつりを成功させるために、
皆様のご協力をお願いいたします!!

1. 賛助金として企業・団体で一口5,000円を、
個人は一口1,000円をお願いします。
何口でもかまいません。(賛助金は干潟まつり
の運営資金や保険料などにあてます)
2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載
したり、チラシの配布にもご協力下さい!

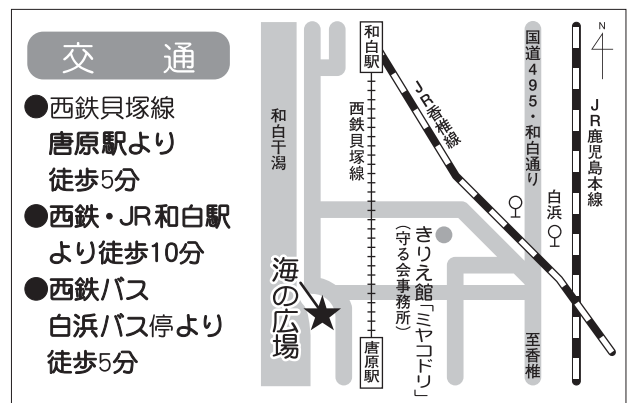
プログラム

開会式	11:00~11:20
バードウォッチング	11:20~12:00
干潟の生物観察	12:00~12:40
自然あそび	12:40~13:20
植物観察	13:20~14:00
コンサート・マジック	12:00~14:15
ミニシアターほか	
一言アピール	14:15~14:30
手をつないで	14:30~14:40
干潟の掃除	14:40~15:00
写真展・パネル展	11:20~15:00
模擬店・バザー	11:30~15:00
閉会式・ラムサール宣言	15:00~15:15
(後片付け・反省会	15:15~16:00)

会場整備応援者募集!!

11/21(土) 15時~ 会場整備
11/22(日) 9時~ テント設営

応援お願いしま~す



賛助金の送り先: 和白干潟を守る会
郵便振替 01720-4-23860

7月28日(火)夏の和白干潟の自然さがし

(高田 将文)

「春の和白干潟の自然さがし」に引き続き、うす曇りの中で2回目の自然さがしを実施しました。台風の後の暑い日で22名の参加がありました。10時からの山本代表の挨拶では、干潟の四季の自然を探るために「自然さがし」を年4回実施することや、和白干潟は塩性湿地植物があるのが特徴。樹林帯、アシ原、砂浜という干潟本来の姿があり、干潟では唯一日本の里100選に選ばれたことなどの話がありました。「自然さがし」には自然観察会のガイド養成の目的があり、季節の違いによる生き物の確認をしていくという話もありました。



まず、海の広場のすぐそばで爽やかに咲いているハマボウの黄色い花を見ました。アシ原に向かって歩くと、シオクグや秋に紅葉するハママツナがありました。潮の引いた足元の砂地にはウミニナ、ホソウミニナがたくさんいます。アシ原に入ると中は藪でした。背丈以上の草が茂り、前の人を踏んだ後を身をかがめながら進んでいきました。海の広場に帰り、シナサワグルミや樹林帯の中のヒトモトススキなども見ました。

前回よりも一般の参加者も増え、小学生も2名いて、「自然さがし」の活動が守る会以外へも広がっていることを感じました。暑くて汗がたくさん出ましたが、参加者の皆さんはとても元気で、たくさんの自然に出会えました。次回の自然さがしで秋の宝物に出会いたいと思いました。(有江)

国際ビーチクリーンアップ参加

国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミデータを調査する催しです。

9月26日のクリーン作戦では、海岸のゴミを1時間拾い集め、30種類に分別し集計しました。和白干潟では、今年もプラスチック類の中の「食品の包装・袋」が最も多かったです。アオサ回収する班と人工ゴミを回収する班に分かれて、38名が参加し、180袋のゴミやアオサを回収しました。九産大生や福岡ECO専門学校生が若い力を発揮し、年配者もよくがんばりました。(田辺)



和白干潟の水質調査・砂質調査結果

下の表は2015年4月から2015年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査におけるPO₄、COD、NO₂についてはほぼ例年どおりでした。透視度については非常によい状態でした。砂質調査については、例年のように夏場にかけて薄くなっています。

(表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります。)底質は夏期に悪化しています。(山之内)

水質調査結果 (2015年4月～2015年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.05
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	5	5	5	7	8
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.01	0.005	0.01	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	92	95	57	100	100	100

砂質調査結果 (2015年4月～2015年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10 [㊦] 地点 表層酸化層の厚さ	mm	8	6	3	2	3	3
還元層の黒色度	-	8	10	9	9	9	9
150 [㊦] 地点 表層酸化層の厚さ	mm	11	13	5	5	5	3
還元層の黒色度	-	8	8	8	9	9	9

7月6日(月)海の中道大橋から潮流観察会

近年、和白干潟で砂の堆積が増えているため、砂の流入状況を確認する目的で潮流観察会を行いました。参加者は守る会7名。海の中道大橋を4~5分歩き最初の潮流を観ましたが、先日の雨で海水が濁っていて、何回も下を覗きながら移動して行くうちに、橋脚の周囲を砂が博多湾側から和白海域に流れ込んでいることが分かりました。砂は渦を巻きながら雲のように湧きあがっていました。全部で6か所、筋を作って砂が流入していました。砂以外にもミズクラゲ、油、ゴミも流れ込んでいました。和白干潟のゴミは川からの流れ込みだけではなく、博多湾からも流れ込んでいることが分かりました。砂の筋の幅は雁ノ巣に近い辺りが一番広いことが分かりました。橋の下には新たに砂洲が出来ていて、コメツキガニやウミナナなどがすんでいるようでした。人工島工事により、海の中道沿岸から砂が和白干潟に流れ込んでおり、和白干潟が砂化していることがうかがわれました。(田辺)



7月26日(日)夏休み！和白干潟の生きものやハマボウを見る会



(和白干潟保全のつどい主催)

台風が夕方から福岡に最接近という天気予報でしたが、午前中は真夏の陽射しがきらきら照りつけ、親子連れなど90名が参加。受付で、干潟の鳥などの写真や、種から育てた牧の鼻の「ハマボウ」の苗のプレゼントもありました。守る会山本代表が干潟の生きもの手袋で開会挨拶。講師は九州環境管理協会の藤井さんです。干潟やアシ原の生きものの観察では、アシハラガニ、アカテガニ、珍しいオカミミガイなどを見せてもらいましたが、子どもたちは説明よりも足元のコメツキガニやアシハラガニを捕まえようと夢中です。唐原川左岸では、ヤマトオサガニ、シオマネキなどを観察。岩礁では、マメコブシガニのペアや脱皮しかけのガザミ、「スナジャワン」というツメタガイの卵塊を観察。牧の鼻の「ハマボウ」では親株はぐんと大きくなり、回りの株も成長し、たくさんのレモンイエローの花を見事に咲かせていました。親株の直径は2.5m、高さは5.3m、花の数は1050ほど。今年はちょうど見頃でした。若木は250株で、大きく育っている株が増え、芽を出した小さな苗もたくさんありました。最初は1本からですが、現在はハマボウの群落地になっていることが実感できました。記念撮影し、アオサを中心にゴミ拾いをしました。「いろんな生きものに出会えて楽しかった」「和白干潟の鳥や風景にいつも癒されている」「和白干潟はアサリ掘りだけでなくすごいところだとわかった」など感想も出され、好評のうちに終わりました。(今村)



ハマボウの花

9月8日(火)ちどり保育園くじら組35名と先生4名



事前に保育園で干潟のDVDを見てきていたので、開口一番「カニはどこにいるの?」と聞き、海の広場の草むらでアカテガニをつかまえて大喜びしていました。干潟の話が始まると、カニの写真や鳥の絵を食い入るように見ながら話を聞いていました。バードウォッチングではカワウの群れを見ました。干潟では思い思いに砂を掘り、貝やカニを見つけていました。少し沖の方には台風の後アオサが堆積しているところがあり、ヘドロ状になっていて、貝類が死んでいました。アシ原で「カニの甲羅を上から押えて両端を持つとよい」と教えると、子どもたちは上手にカニをつかまえていました。大きなハマガニを見つけ、連携プレーで首尾よくバケツに入れることができました。貝の浄化実験ではアサリなどがたくさんとれたので水が透明になりました。「なぜ鳥はカニをエサにしているのですか」などの質問が出ました。「楽しかった」「カニがいて嬉しかった」と観察会の感想を言っていました。(有江)

9月24日(木)筑陽学園中学校3年生69名と先生5名の和白干潟校外理科学習

今年で23回目となる筑陽学園中学校の和白干潟の観察会です。学校のある太宰府市からバスで到着。午前中は観察会、昼食後は9班に分かれ干潟調査です。干潟の生物(砂地・砂泥地・泥地、岩場)、カニ巣穴、アオサと干潟汚染、沿岸の植物、干潟の汚染と浄化能力(3地点)の調査に取り組みました。講師は和白干潟を守る会の5人のガイドと学校の3人の先生です。しっかり事前学習が積み重ねられ、調査を通して「和白干潟の保護」を柱に発表会が行われるそうです。今年は天候もよく、生き物やアサリも多かったことで、浄化実験は大成功でした。アオサの堆積で沿岸近くでは腐った匂いがしました。アオサ回収の必要性についての学習ができたと思います。(今村)



ハマユウ (ハマオモト)

ヒガンバナ科。暖地の海岸に生える常緑多年草。葉は30～70cm、厚くて光沢があります。70cmほどの花茎の頂に多数の白い花を咲かせます。花期は7～9月。夜中に開花し、むせるような香りを出します。玄界灘の海岸にも多く自生しています。和白干潟ではアシ原の入り口付近や和白川河口などで見られます。花が終わったものから実がつきます。種子は皮が厚く空気を含み、海水によく浮き漂着し、そこで発芽するそうです。ハマユウも広がっていきそうですね。



ハマユウの花と実

トビハゼ



トビハゼ

ハゼ科。体長80mm。環境省 準絶滅危惧 (NT)。

体は細長く、両眼が突き出ています。河口の泥地に巣穴を掘ってすんでいます。魚なのに水を嫌い、潮が満ちてくると胸びれで這って逃げます。春から秋に水上や陸上を跳ねる姿が見られます。有明海のムツゴロウは泥の上の藻類などを食べますが、トビハゼは肉食でゴカイなどを食べています。雄が雌に求愛のジャンプをするので、トビハゼと言うそうです。和白干潟では唐原川左岸奥にある溝周りの河口泥干潟に生息しています。近づくと一緒にピョンピョンと跳ねて逃げ、とても可愛いです。

キアシシギ

シギ科。全長25cm。旅鳥。脚が黄色いのでキアシシギと言います。中型のシギ類です。春と秋に和白干潟に立ち寄ります。干潟や水際で採食し、「ピューイ、ピューイ」と澄んだ声でよく鳴きます。和白干潟では10羽ほどの群れで行動することが多いです。またソリハシシギも一緒にいることがよくあります。干潟のカニや虫を食べています。背は灰色で、胸から脇は白地に灰黒色の波型横斑があり、他のシギと区別するポイントになります。



キアシシギ

秋の和白干潟のしぜん情報

アシ原：アシに穂が付きだんだん膨れてきます。キンエノコロも穂をつけています。センニンソウの白い花が木々を覆っています。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハママツナが紅葉。樹林帯のハゼやナンキンハゼも紅葉。アキグミやセンダン、シャリンバイやトベラなどの実がみのります。



キンエノコロの穂

干潟：今秋のアオサは8月頃の台風直撃後、沖合いから大量に押し寄せてきました。徐々に岸にも寄せています。アオサと共に、ホトトギスガイ、ハマトビムシ、フレリトゲアメフラシなどが増え、ダイサギやアオサギが多くなります。アオサはヒドリガモなどの餌となりますが、多すぎて腐り、ヘドロ化して干潟や生き物たちを傷めます。海水温が10度以下になるとアオサは成長をやめて、さらに低温になると分解するそうです。

水鳥：10月には淡水ガモが飛来。ミヤコドリやクロツラヘラサギも訪れます。11月には越冬するシギ、カイツブリ、カモメ類も渡ってきます。12月にはツクシガモやズグロカモメが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。冬の鳥たちの訪れは楽しみです。

唐原川保全區を立ち上げ「ふれあい環境教室」開く

浚渫工事によってゲンジボタル、希少植物「フトイ」などの唐原川の貴重な生態系が損なわれないよう、和白干潟を守る会を含む「山・川・海の流域会議」と九州産業大学、地元自治会と市が協議、川の一部区間を自然のまま残すこととなり、8月30日、九州産業大学内田ゼミと共催で、「唐原川保全區立ち上げ式」として地元小学生対象の「ふれあい環境教室」を開催しました。校区の小学生7人が参加し、学生が講師をつとめ、式では地元自治協議会会長、山・川・海の流域会議代表が挨拶。保全區と浚渫工事、唐原川の生き物や植物についての説明のあと、一人一人が網を持って川に入りました。水かさは子どもたちのふくらはぎ程度で、マンツーマンで学生が指導。川の両岸からは大人たちが見守って声をかけます。採集体験で採れたのはカワムツ、ドンコ、スジエビ、ヌマエビ、メダカ、カワニナ、モクズガニでした。カワセミも飛んできました。生き生きと川の中を動き回っている子どもたちの姿こそ子ども本来の姿と、大人たちも子どもの頃を思い出しました。今後、地域と大学と市民団体との連携が期待されます。(今村)



日本自然保護協会の自然しらべ2015

「和白干潟版」と「雁の巣外海砂浜版」を実施



今年のテーマは、「砂浜ビンゴ」です。「いきものがあけた穴」「砂浜が好きな植物2種」「あなたがみつけたびっくり」「砂浜の景色」「堤防チェック」「海がだいすきな貝」「水が苦手なオカヤドカリ」「きれいな砂」の9点を調べました。7月21日に和白干潟、8月4日に雁の巣外海(玄界灘)の2カ所を調査しました。和白干潟では、調査対象の穴はカニの穴、ツルナ、砂浜の景色、きれいな砂、「砂浜でみつけたびっくり」は多くのウミナガがアシに登ってアシのくきについた緑の珪藻を食べていることを確認。雁の巣外海では、カニの穴、ツルナとハマニガナ、砂浜にはゴミが沢山あったが砂は綺麗でした。「砂浜でみつけたびっくり」は海に突き出た大きな5m程の高さの砂岩です。ナミノコガイの貝殻は数個見つかっただけでした。地球温暖化を言われて長くなりますが、移動するもの、消えゆくもの、増えるものなど色々のようです。(田中)



第12回ラムサール条約締約国会議参加報告から (JAWAN通信より)

6月にウルグアイで開かれた第12回締約国会議で、2016年から24年までが対象の新しい戦略計画が採択されました。日本政府がこの9年間に戦略計画をもとに国内の湿地保全全体の底上げをできるのかが問題です。「個々の湿地保全がうまくいってこそ、地球環境全体を視野に入れることができるのだ」と会議に出席された元条約事務局の小林さんは述べています。7月には条約調査団がノルウェーのフィヨルド湖地域の自動車道路と高速鉄道網建設が登録湿地に悪影響を与えないか評価したうえで政府と話し合うことになっているそうです。また、諫早から個人参加された大島さんは「開発の自然破壊と闘っている地域に注目して行動したい。国内では和白干潟も開発の恐怖と闘っている。こうした政策の変換を図るためのラムサール会議を目指したい」と述べられています。

気が付いたらあなたも電話してください!

- ▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾局維持課)
- ▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾局環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611
092-643-3367

** お 願 い **

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう!
とても危険です。
- 干潟や堤防での火の取扱いはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止、
バーベキューや花火禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



福岡県筑紫保健福祉環境事務所 (地域環境課)
福岡県環境部自然環境課野生生物係

●2015年6月

- 6/2 (火) 「あすみん」学生ボランティアミーティング参加 (福岡工業大学)
- 6/4 (木) 干潟通信115号編集会議
- 6/7 (日) ラブアースクリーンアップ参加の和白干潟クリーン作戦
- 6/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/12 (金) 玄海風の子保育園年長児の和白干潟観察会
- 6/14 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会)
- 6/17 (水) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
- 6/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 6/28 (日) 和白干潟通信115号編集会議

●2015年7月

- 7/6 (月) 潮流観察会 (海の中道大橋)
- 7/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/11 (金) 山・川・海の流域会議・イオン黄色いレシートキャンペーン
- 7/12 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会)
- 7/14 (火) 和白干潟通信115号発送会
- 7/21 (火) 日本自然保護協会の自然しらべ (和白干潟)
- 7/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 7/26 (日) 和白干潟の生きものやハマボウを見る会 (保全のつどい)
- 7/28 (火) 夏の和白干潟の自然さがし

●2015年8月

- 8/2 (日) 2015年秋期シギ・チドリ調査1回目 (今津)
- 8/4 (火) 日本自然保護協会の自然しらべ (雁ノ巣外海、玄界灘)
- 8/6 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/9 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会)
- 8/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 8/18 (火) 2015年秋期シギ・チドリ調査1回目 (博多湾東部)
- 8/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 8/29 (土) アオサのお掃除大作戦1回目 (保全のつどい) 参加
- 8/30 (日) ふれあい環境教室 (山川海の流域会議共催) 参加



干潟のつばやき 「ハクセンシオマネキよ いつまでも！」

ハクセンシオマネキは甲羅の幅が2cmほどのスナガニ科のカニで、オスは片方だけ大きなハサミを持ち、繁殖期には白い大きなハサミを振り上げるウェービング動作が白い扇子を振るように見えることから、この名前がついたとされています。このハクセンシオマネキは河口域の満潮線付近で、泥まじりの転石地帯に生息しています。和白では唐原川河口や和白川河口でよく見かけます。近年は和白干潟が砂質化したことで、唐原川河口では見かけることが少なくなりました。5月の初旬、和白川河口に行きましたが姿はなく、チゴガニに続きハクセンシオマネキもいなくなったのかと思いましたが、7月中旬に行った時にはいつもの所にいました！しかも、河口の盛り上がった所だけではなく、土手近くにもたくさんいます。いつまでもハクセンシオマネキが生息できる和白干潟にしていきたいですね。

(山之内)



ラムサール条約登録を求める署名にご協力を！

大都市福岡に自然と共存する「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を
次回2018年のラムサール条約締約国会議で和白干潟が選ばれるように、福岡市議
会議長に対し、2015年秋から請願署名活動を始めます。集約は2016年12月です。
皆様のご協力をよろしく申し上げます。お問い合わせは和白干潟を守る会まで。

和白干潟のエコチャレンジ「アオサのお掃除大作戦！2015」報告



「和白干潟保全のつどい」主催で2015年第1回アオサのお掃除大作戦が8月29日和白干潟で行われ、28名が参加し、120袋のアオサを回収しました。第2回目は9月12日に開催、イオンチアーズクラブの子どもたち63名が参加し、194袋のアオサを回収しました。

海の広場でアオサの生態などの話の後、各自ネット2袋とソリを持って干潟に入り沖合いの回収場所へ行きました。アオサの回収作業に取りかかりましたが、アオサの下の方は腐りかけて悪臭を放っていました。40分ほど作業を行って残ったアオサ袋をソリに乗せ、中継地点へ移動しました。中継地点で全員集

まって記念撮影。その後中継地点に積まれたアオサをソリに乗せてゴミ置き場まで運搬しました。最後に海の広場でミニイベント、アオサ堆肥の話や干潟の植物の話などを行った後、スポンサーからのお菓子とスタンプカード（西鉄かしいかえんの割引サービス）を渡して散会しました。イオンチアーズクラブの子どもたちは、何年も参加している人がかなりいました。（山之内）

キヤノン 未来につなぐふるさとプロジェクト クリック募金 実施中！（2/2～12/11）

守る会のホームページかキヤノンのHPから

<http://cweb.canon.jp/csr/donation/index.html>

ぜひ「福岡県」の「和白干潟を守る会」に毎日1クリックをお願いします！

1クリックで1円が守る会に寄付されます。10/2現在、27,871円です。 アクセスをよろしく！



和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます

9/29「和白東レインボークラブ連合会」より寄付金をいただきました。

たくさんのご支援に感謝申し上げます！

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会（申込等）	山之内芳晴	Tel. 090-8412-2663
クリーン作戦	田辺スミ子	Tel. 090-1346-0460
会費	田中貞子	Tel/Fax. 092-606-5588
干潟まつり	今村恵美子	Tel/Fax. 092-942-5282
広報 / 調査 / 定例会議	山本廣子	Tel/Fax. 092-606-0012



【編集】 今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子

《カット》くすだひろこ 次号は2016年1月に発行予定

【編集後記】今年も和白干潟まつりが近づいて来ました。早いもので第27回目を迎えます。

回を重ねるごとに基本はそのままですが、内容も少しずつ変化しています。私も微力ながら主に、バードウォッチングを担当しています。足を運んで下さる皆さまに、満足していただけるように守る会一同頑張ります。（田辺）



お知らせコーナー

秋の和白干潟の自然さがし

今春から始めた和白干潟のアシ原周辺の自然さがし。秋にはどんな宝物が見つかるでしょうか？

とき：10月27日(火) 受付9:45 開始10:00～12:00 大潮 満潮 9:24 干潮 15:11

集合：和白干潟海の広場(福岡市東区和白4丁目海岸) 参加費：無料 雨天中止、小雨決行

持ち物：ルーペ、筆記具、飲み物、あれば(双眼鏡) 服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴

主催：和白干潟を守る会 問い合わせ：TEL：090-1346-0460(田辺)



第18期 和白干潟の自然観察ガイド講習会

「アシ原付近にはどんな鳥が来るのだろう」



とき：12月20日(日) 受付：12:30 開始13:00～16:00 長潮 満潮 17:27 干潮 10:27

集合：和白干潟を守る会事務所(和白1-14-37 海のきりえ館1階) 主催：和白干潟を守る会

講師：田村 耕作 氏：日本野鳥の会会員 参加費：2000円(和白干潟を守る会会員は無料)

持ち物：筆記具、ルーペ、飲み物、(あれば)双眼鏡 服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴

募集：30名 講習は室内とフィールド 申し込み：TEL：090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール



定例会議(10/24, 11/28, 12/19)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。

12月は第3土曜日。

以下は参加自由です！仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(10/24, 11/28, 12/19)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。12月は第3土曜日。

和白海岸探鳥会(11/8, 12/13, 1/10)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合

主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし

会員募集中！
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い
和白干潟を守る会のボラン
ティア活動に参加して、新たな
自分を見つけませんか？あな
たの経験や知識や技術が、き
っと活かされますよ！

和白干潟の鳥たち(その72)

ダイゼン(チドリ目 チドリ科 / Grey Plover) 大膳 [全長29cm]



写真撮影：三宅 僚

ダイゼンは和白干潟では、秋から春にかけて見られるチドリの仲間です。鳩くらいの大きさで、目がパッチリとしてとても可愛い顔だちです。「灰色のチドリ」という英名は冬羽の特徴をとったものです。夏羽(繁殖期)では顔と腹が黒くなり、背中と翼は白でとても美しく目立ちます。しかしすぐに北へ旅立つので、夏羽の姿はあまり見ることはできません。干潟で立ち止まり、地表をつついて主にゴカイを食べます。「ピウイ～」と澄んだ尻上がりの声で鳴きます。

和白干潟では1990年代から10羽～30羽が見られていますが、近年は5羽から15羽と減少傾向にあります。和白干潟にいつまでも来てほしいですね。(山本 廣子)